公益社団法人 石川県言語聴覚士会

年 報

2023年度 第6巻



Ishikawa Speech-Language-Hearing Therapist Association

次 目

| 2023 年度年報 発刊に寄せて ・・・・・・ 公益社団法人 石川県言語聴覚士会 会長 徳田 紀子 |
|---|
| 1. 公益社団法人石川県言語聴覚士会の概要 ・・・・・・・・・・・・ 1 |
| 2. 2023 年度の主な事業一覧 |
| 3. 2024 年度の主な事業・行事予定 9 |
| 4. 2023 年度 研修会一覧 |
| 1) 研修部 |
| ①症例検討会 |
| ②吃音研修会 |
| 2) 学術部 |
| ①生涯学習プログラム専門講座 |
| ②第12回 石川県言語聴覚学術集会 |
| ③第21回 北陸言語聴覚学術集会(福井開催) |
| 5. キャリアアップ支援事業 · · · · 18 |
| 6. 県民向けイベント ・・・・・・・・・・・・・・・・・20 |
| 1) 言語聴覚の日 川柳コンテスト |
| 2) 県民公開講座 |
| 3) 小児発達相談会(11月26日報告) |
| 7. 他団体との連携事業 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22 |
| 1) 石川県理学療法士会・作業療法士会・言語聴覚士会連絡会研修会 |
| 2)石川 JRAT 活動報告 |
| 3) 特別支援学校の医療等外部専門家との連携事業 |
| 4) 石川県理学療法士会 地域支援事業への協力 |
| 8. 失語症者向け意思疎通支援者養成講習会報告 ・・・・・・・・・・ 28 |
| 9. 関連団体主催行事などへの参加活動 · · · · · 29 |
| 1) 志賀町リハビリテーション友の会 言語リハビリ講習会への講師派遣 |
| 2) きこえの相談会相談員派遣 |
| 3) 石川県失語症友の会研修会・月例会での協力施設 |
| 4) 金沢市フレイル予防事業 |
| 5) 金沢市健康づくりフェア |
| 6) いしかわ介護フェスタ |

石川県言語聴覚士会シンボルマーク(表紙)の意味

直接的には、中心の輪の部分が「口」「耳(鼓膜)」「脳」を、サイドの曲線部分が「声・音(音波)」を抽象化したデザインです。 さらに、もうひとつの意味として、中心の輪は「コミュニケーションのバリア」、曲線は「つながり」をイメージしています。 つまり、このマークは、「コミュニケーションの輪を広げ、多様な人生との絆を深めよう」「社会や自分の中のバリアを突き破り、共に生きていこう!」という私たちのメッセージを象徴しているのです。

2023 年度年報 発刊に寄せて



公益社団法人 石川県言語聴覚士会 会長 徳田 紀子

2023年度も3ヶ月を残して年間事業の総仕上げに入ろうとしていた1月1日、「令和6年能登半島地震」によって状況は一変し、一生忘れることのできない年明けとなりました。この度の震災により犠牲となられた方々にお悔やみを申し上げますとともに、大切な方をなくされた方々、被災されたすべての方々に心よりお見舞い申し上げます。また発災からこれまでの間に、全国各地からご支援とお見舞いのお言葉をたくさんいただいております。皆様からの温かいお心遣いに深く感謝申し上げます。

2023年度の年報作成にあたり1年の活動について振り返ってみますと、「言語聴覚の日イベント」「いしかわ介護フェスタ」や「金沢市健康づくりフェア」においては、地域の方々にコミュニケーション障害や摂食嚥下障害そして言語聴覚士について知っていただく機会として実施することができました。またきこえの相談会や小児の発達相談会は、当事者の方々への相談事業として開催することができております。今年度4年目となる失語症者向け意思疎通支援者養成講習会は全過程を予定通り開催し、昨年度からの補講の方も合わせて13名が無事修了されました。2月には県民公開講座で「読み書き障害の理解と学習支援」をテーマに、言語聴覚士の河野俊寛氏よりご講演をいただきました。教職員の方など言語聴覚士以外の方々にも参加していただき、基本的なことから具体的な支援方法までとても分かりやすく大変勉強になったという感想を多くいただいております。関連団体との活動についても、皆様からご支援をいただきながら継続して行うことができました。特に震災後は、石川JRATの一員として災害リハビリテーション支援活動を進めております。1.5次避難所や一時待機ステーション、非常に多くの方々の広域避難など、初めて尽くしの災害支援ではありますが、全国から多くの方々が支援に駆けつけていただき、言語聴覚士としてできる新たな支援の形を考える機会にもなっています。

来年度もこれまで行ってきた事業を止めることなく、有事の時にこそ言語聴覚士が専門とする「コミュニケーション」や「食べる・飲む」ことへの支援について、その時にできる最善の方法を模索しながら事業展開していきたいと思っております。石川県内の復旧復興には非常に長い時間がかかることが予想され、またこれまでとは全く違う方法を選択せざるを得ない場面も出てくると思われます。会員一同、1日も早い地域の医療介護福祉サービスの復旧復興に向けて前進していきたいと思っております。

今後とも何卒ご指導・ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

2024年3月吉日

1. 公益社団法人石川県言語聴覚士会の概要

2024年3月現在

沿 革:2000年4月9日 石川県言語聴覚士会設立

2012 年 4 月 22 日 一般社団法人石川県言語聴覚士会へ移行 2018 年 4 月 1 日 公益社団法人石川県言語聴覚士会へ移行

事務局:

【 名称 】 公益社団法人石川県言語聴覚士会

【 住所 】 〒923-8551

石川県小松市八幡イ 12-7

やわたメディカルセンター 言語療法室内

【 TEL 】 0761-47-1212 (代)

(E-mail) info@st-ishikawa.com

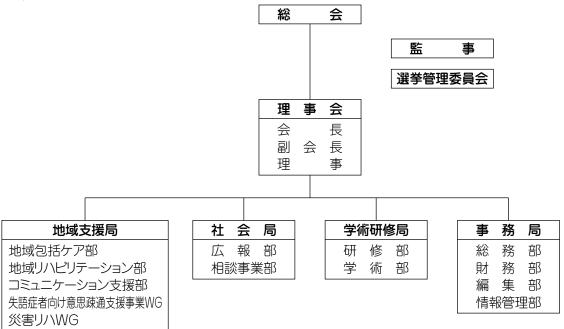
【URL】 https://st-ishikawa.com/

目 的: 当法人は、県民の医療・介護・保健・福祉・教育の増進に寄与することを目的とし、言語 聴覚士の技能及び資質の向上並びに言語聴覚療法及びサービスの普及・啓発・発展を図る。

事 業:

- 1. 県民の医療・介護・保健・福祉・教育の増進及び生活支援に関する事業
- 2. 言語聴覚療法の普及・発展に関する事業
- 3. 言語聴覚士の職業倫理及び社会的責務に関する事業
- 4. 言語聴覚士の知識及び技術の向上に関する事業
- 5. 関連団体との連携及び協力に関する事業
- 6. 会員の福利厚生に関する事業
- 7. 前各号に定める事業に関連する事業

組織図:



任期: 2023年6月23日~2025年総会

役 員:

| | 役 | 職 | 名 | | 氏 | 名 | 所 属 | 施設 | r. Z | 役 割 |
|----|--------|---------------|--------------|---------------|-----------|----------|----------------------|------|---------|---|
| 代理 | 表 事 | 会 | | 長 | 德田 | 紀子 | 二ツ屋病院 | | | 会務の総括および渉外 |
| | | 副 | 会 | 長 | 上野真 | 真由美 | 金沢西病院 | | | 会長補佐 渉外・地域担当 |
| | | 副 | 会 | 長 | 薮越 | 文佳 | 公立能登総合 | 病院 | | 会長補佐 総務・法人関係業務 |
| | 学術研 | 副 学術研 研 | 会 开修 修 | 長 局統括 部 | 藤田 | 徹 | 金沢こども医療 | で福祉さ | こンター | 会長補佐、症例検討、協会生涯学習 基礎講座、キャリアアップ支援事業 |
| | 修局 | 学 | 術 | 部 | 山﨑 | 憲子 | 金沢医科大学 | 病院 | | 協会生涯学習専門講座、言語聴覚 学術集会、会員研修プログラム |
| 理 | 社会 | 社会相談 | 会局系 炎事美 | 充括 業部 | 田嶋宏 | 宏太郎 | 小松市民病院 | | | 関連団体との連携(講師派遣) |
| | 局 | 広 | 報 | 部 | 城本 | 亜衣 | 金沢春日ケアセ | ニンター | | 言語聴覚の日・いしかわ介護フェスタ その他広報活動 |
| | 地域古 | 地域。 | 支援 厚 | 局統括 \部 | 谷口 | 昌代 | KKR北陸 訪問看護ステ- | ーション | | 地域リハ関係業務 失語症者向け意思疎通支援事業の推進 コミュニケーション障害についての啓蒙 |
| | 域支援局 | 災害 | リハ | \WG | 金沢 | 一恵 | かがやきクリニュ | ック | | 災害医療に関する知識と技術を有する STの育成、石川JRATへの参加 |
| 事 | | 編 | 集 | 部 | 長原 | 幸穂 | 城北病院 | | | ニュースレター・年報の編集・発行 理事会書記・議事録作成 |
| | 事 | 財 | 務 | 部 | 宗石 | 順子 | 独立行政法人 金沢医療センク | | 院機構 | 収支管理 |
| | 務局 | 情幸 | 设管理 | 里部 | 大聖寺 | 友里那 | 浅ノ川総合病障 | 完 | | 会員情報管理・ホームページ管理 職能に関する情報収集・発信 |
| | | 総 | 務 | 部 | 木村 | 聖子 | 恵寿総合病院 | | | 窓口業務・各種文書管理・総会準備 法人関係業務・会員の親睦交流など |
| | 監 | | 事 | | 杉本名 勝木 | 於那子 準 | JCHO金沢病院 やわたメディカル | | · | |

会員数:合計 181 名

(2024年3月31日現在)

| 正会員 | | 157 名 | | |
|------|----|-------|-----|--|
| | 個人 | 3名 | | |
| | | | A会員 | やわたメディカルセンター |
| | | | B会員 | 株式会社アルバ、社会医療法人財団 董仙会 恵寿総合病院 |
| 賛助会員 | 団体 | 21団体 | C会員 | 医療法人社団 浅ノ川 金沢脳神経外科病院、医療法人社団 慈豊会、大生食品工業株式会社、株式会社 フードケア、マルト株式会社 印刷事業部、バランス株式会社、ニュートリー株式会社、キッセイ薬品工業株式会社、株式会社 明治中部支社 北陸オフィス、株式会社 大塚製薬工場、ティーアンドケー株式会社、独立行政法人 地域医療機能推進機構金沢病院、公益社団法人 石川勤労者医療協会 城北病院、医療法人社団 博友会金沢西病院、石川県済生会金沢病院、医療法人社団 和楽仁 芳珠記念病院、株式会社 宮源、理研産業株式会社 |
| 学生会員 | | 0名 | | |

2. 2023 年度の主な事業一覧

1. 言語聴覚士の質の向上(知識・技術の習得)および社会的責務に関する事業

新人育成のための研修

※Web研修・Web会議にはZoomを使用

| 事 業 名 | 担当者 | 開催日 | 開催場所 | 参加者及び内容 |
|---------------|-----|---------|------------|---|
| 新入会員オリエンテーション | 藤田 | 6月4日 | 金沢市ものづくり会館 | JAS生涯学習プログラム・ISTA会員研修プログラム等の概要や研修を中心とした説明、情報交換等実施。 参加者8名 |
| 日本言語聴覚士協会 | 虚田 | 泰田 9月2日 | Web研修 | 参加者6名(会員4名、会員外2名) 講師1名(会員1名) 「臨床業務のあり方・進め方」 |
| 生涯学習基礎講座 | 膝田 | | | 参加者5名(会員4名、会員外1名) 講師1名(会員1名) 「研究法序論」 |
| 症例検討会 | 藤田 | 12月22日 | Web研修 | 参加者8名 「脳皮質下出血により失語症を呈した症例 -環境による発話状況の改善-」 |

技術向上のための研修

| 事 業 名 | 担当者 | 開催日 | 開催場所 | 参加者及び内容 |
|--|----------|--------|-------------|---|
| 第21回北陸言語聴覚学術 集会(福井開催) | 山﨑 | 10月22日 | 福井県 自治会館 | 参加者98名(会員44名、会員外54名) 一般演題8題(会員1題、会員外7題) |
| 地域リハリーダー養成 研修会 | 谷口 上野 | 中止 | | 参加希望者、受講対象者少数のため中止 |
| 日本言語聴覚士協会 生涯学習専門講座 | 山﨑 | 7月22日 | Web研修 | 参加者30名(会員15名、会員外15名) 講師1名(会員外1名) 「臨床を豊かにするための研究法(基礎編) -120分で症例報告の枠組みを書こう」 |
| 石川県言語聴覚学術集会 | 山﨑 | 11月5日 | Web研修 | 参加者36名(会員24名、会員外12名) 発表者4名 |
| 日本言語聴覚士協会 生涯学習ポイント対象研修会 | 山﨑 | 11月5日 | 福井県 自治会館 | 参加者36名(会員24名、会員外12名) 講師1名(会員外1名) 「失語症の理解のために――自動言語をめぐる話」 |
| 会員研修プログラム ベーシック コース「失語症」 | 藤田 | 1月28日 | Web研修 | 参加者7名(会員7名、会員外0名) 講師1名(会員1名) |
| 会員研修プログラム ベーシック コース「高次脳機能障害」 | 藤田 | 中止 | | 能登半島地震により中止 |
| 会員研修プログラム ベーシック コース「同職種連携」 | 藤田 | 中止 | | 能登半島地震により中止 |
| 吃音相談・研修システム体制の 運営(臨床施設調査、研修会、 相談・紹介システム) | 藤田木村 | 随時 | Web研修 | 参加者16名(会員11名、会員外5名) 講師1名(会員1名) ・吃音の臨床や支援等に関する研修及び相談・ 紹介に関する情報提供等を実施 ・「『サポートブック』活用を 吃音のある小児の 指導・支援」 |

関係団体と合同で行う研修

| 事 業 名 | 担当者 | 開催日 | 開催場所 | 参加者及び内容 |
|---|-----|--------|--|---|
| 石川県訪問リハビリテーション 実務者研修会 | 金沢 | 中止 | | 能登半島地震により中止 |
| 地域ST研修会 | 谷口 | 中止 | | 能登半島地震により中止 |
| 石川県理学療法士会、 作業療法士会、 言語聴覚士会連絡会、 県リハビリテーションセンター 共催の研修会 | 上野 | 10月22日 | ハイブリッド (Webと参集) 県リハビリテー ションセンター | 市町事業に関わるリハビリテーション専門職育成研修①PTOTST共通導入研修参加者38名(会員3名、会員外35名:PT22名、OT13名)講師3名(会員外3名)講演「地域リハ推進のためにこれから行政とできること~地域支援事業等を手段として『当事者が健康になる』に役立つセラピストに~」 |
| 石川県理学療法士会、 作業療法士会、 言語聴覚士会連絡会 主催の研修会 | 上野 | 中止 | | 能登半島地震により中止 |
| 石川JRAT研修会 | 金沢 | | | 能登半島地震により開催せず |

他団体が開催する研修会への派遣

| 事 業 名 | 担当者 | 開催日 | 開催場所 | 参加者及び内容 |
|--------------------------|-----|----------------|--------------------------------------|-----------------------------|
| 失語症者向け意思疎通 支援者指導者養成研修 | 水上 | 10月21日 22日 | Web研修 | 会員4名 Web研修 4名修了 |
| JIMTEF災害医療研修会 | 金沢 | 6月4日~ 7月10日 | Web研修 現地開催 | 会員3名 ベーシック2名修了 アドバンス1名修了 |
| 診療報酬·介護報酬 同時改定説明会 | 小森 | 3月16日 | MEETING SPACE AP 日本橋ルーム F・G | 会員1名 |

助成

| 事 業 名 | 担当者 | 開催日 | 開催場所 | 参加者及び内容 |
|-------------|-----|-----|--------------|--|
| キャリアアップ支援事業 | 藤田 | 通年 | Web研修と 参集 | 申請者3名(会員3名、会員外0名) うち助成3名 使用研修会名 LSVT®LOUD認定講習会 第16回JIMTEF災害医療研修アドバンスコース 第16回補聴器講習会 |

2. 県民への言語聴覚療法等の普及・啓発及び支援に関する事業

| 事 業 名 | 担当者 | 開催日 | 開催場所 | 参加者及び内容 |
|---|-----|--|--|---|
| 「言語聴覚の日」のイベント | 城本 | 8月20日 | 学びの杜ののいち カレード オープンギャラリー | 内 容:パネル展示・川柳コンテスト 来場者:55名 参加者:広報部員8名 |
| 川柳コンテスト | 城本 | 募集 6月19日~ 7月30日 投票 8月20日~ 9月10日 | 募集 県士会HP (Web上) 投票 Web上と 言語聴覚の日 イベント会場にて | 川柳コンテストをメール等で募集し、Web上と言語 聴覚の日のイベント会場とで投票を行った。 9月末にホームページ上で結果を報告した。 募集俳句:応募総数124句 掲載は63句 表彰:金賞1名 銀賞2名 銅賞3名 入選5名 |
| 金沢市「健康づくりフェア」 へのブース出展 | 城本 | 9月23日 ~24日 | 金沢健康プラザ 大手町東館 | 「簡易的な聴力検査」と「お口まわりと滑舌相談」 来場者:132名 参加者:上野副会長、広報部員5名 |
| いしかわ介護フェスタへの ブース出展 | 城本 | 11月4日 | 石川県 産業展示館 3号館 | 内容:体験・パネル展示・相談 来場者:約100名 参加者:広報部員4名 |
| 「お仕事まるわかり事典」 2024年度版への寄稿 | 城本 | 12月 | | (株日本医療企画によって作成される高校生・中学生 に向けた職業紹介情報誌へ言語聴覚士の職業紹 介文を寄稿 |
| 県民公開講座 | 谷口 | 2月11日 | 県立図書館 だんだん広場 | 参加者84名(会員22名、会員外62名:ST22名、OT 1名、NS2名、保育士6名、教職員23名、社会福祉士 1名、保護者16名、小児科医1名、支援者3名、相談 員2名、その他7名) 講演:河野俊寛氏(言語聴覚士) 「読み書き障害の理解と学習支援」 |
| 小児発達相談会 | 田嶋 | 7月9日 | 金沢市教育 | 相談者4名 参加者ST4名(会員4名) |
| 1 JUNE HIND | 上野 | 11月26日 | プラザ富樫 | 相談者8名 参加者ST6名(会員6名) |
| 失語症者向け意思疎通 支援者養成事業 (石川県委託事業) ①失語症者向け意思疎通 支援者養成講習会 | 水上 | 8月6日·20日 9月3日·16日 10月1日· 15日·29日 11月11日·26日 (計9回開催) | 金沢市ものづくり会館能美市防災センター | 受講者9名 講師 延べ17名(ST15名、PT1名、県職員1名) スタッフ、チューター 延べ29名(ST15名) 当事者講師 延べ30名 修了者 R4年度開始6名 R5年度開始7名 合計13名 (1) 失語症とは何か (2) 意思疎通支援者の役割、心構え及び倫理 (3) コミュニケーション支援 (4) 外出同行支援 (5) 身体介助 (6) その他、失語症者の意思疎通支援に必要な事項 失語症友の会会員当事者、会員以外の当事者の実習 参加、意思疎通支援者の実習参加を行った。 |

| 事 業 名 | 担当者 | 開催日 | 開催場所 | 参加者及び内容 |
|-----------------------------|-----|-----|------|---|
| ②失語症カフェ | 水上 | 中止 | | 能登半島地震により中止 |
| ③失語症者向け意思疎通 支援者フォローアップ研修 | 水上 | 中止 | | 能登半島地震により中止 |
| 会のホームページの刷新 管理運営 | 木村 | 通年 | | ホームページの更新、内容充実を図った。 メーリングリストの管理を行った。 |

自治体や他団体が開催する各種研修会・イベントへの派遣

石川県立看護大学講義

石川県失語症友の会例会

志賀町リハビリテーション友の会 言語リハビリ教室

金沢市フレイル予防事業、健康づくりフェア出展

聞こえの相談会(白山市、能登地区、中能登、内灘、小松市)

特別支援学校の医療等外部専門家との連携事業(珠洲、輪島、七尾、明和、ろう、小松、小松瀬領、錦城、盲)

加賀脳卒中地域連携協議会

2023年度学校教育連携担当者連絡協議会

石川県在宅医療推進協議会

金沢市教育プラザ総合保育巡回指導

石川県理学療法士会 令和5年度 高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業(七尾市)

石川県理学療法士会 令和5年度 伴走型保険者支援事業 介護予防事業(珠洲市)

野々市市発達相談センター講演会

3. 言語聴覚療法の研究・調査に関する事業

| 事 業 名 | 担当者 | 開催日 | 参加者及び内容 |
|-----------------------|------|-----------------|---|
| アンケート調査 VF・VE・訪問リハ | 石原 | 9月10日~ 9月23日 | 毎年行っている外来VE、VF検査実施施設、訪問リハ実施施設一覧の更新を行った。 |
| 2023年度小児ST 情報交換会 | 藤田上野 | 10月1日 | 参加者11名(会員11名、会員外0名) テーマ:日本言語聴覚士協会 令和5年度学校教育連携担当者 連絡協議会参加報告、日本言語聴覚学会学校教育に関わるST の集い参加報告、特別支援学校の外部専門家との連携事業情報 交換と今後について Webにて実施 |

4. 言語聴覚療法に関する刊行物の発刊に関する事業

| 事 業 名 | 担当者 | 発行日 | 内容 |
|---------------------|-----|-----------------|---|
| 石川県言語聴覚士会年報 の発行 | 長原 | 6月4日 | 2022年度の事業を年報としてまとめ、内容の充実化と読みやすい 紙面づくりを図った。 |
| ニュースレターの発行 (年4回) | 長原 | 6月、9月 12月、3月 | 年4回ニュースレターを作成し、発行した。 |

5. 関係団体との連携及び協力に関する事業

| 事 業 名 | 担当者 | 開催日 | 開催場所 | 参加者及び内容 | | |
|-------------------------|----------|--------|---------|---|--|--|
| 石川県訪問リハビリテーション 連絡会 | 金沢 | 7月12日 | Web会議 | 訪問リハ・地域リーダー会議報告、訪問リハ実務者 研修会の研修の日程や内容について協議した。 | | |
| 石川県理学療法士会 | 德田 上野 | 6月22日 | | 県リハビリテーションセンターの協力を得て、地域ケア会議・介護予防事業に関する研修会の企画運営を行った。 市町事業への協力者アンケートを実施した。 | | |
| 作業療法士会 | | 9月11日 | 県リハセンター | | | |
| 言語聴覚士会連絡会 | | 12月14日 | | | | |
| 災害リハビリテーション支援 担当者連絡会 | 徳田 | 3月12日 | 県リハセンター | 石川JRAT役員と県の厚生政策課、長寿社会課、 障害保健福祉課、医療対策課、県リハ事務局で、能 登半島地震での災害リハ支援と復興リハビリ支援 体制について協議した。 | | |
| 能登半島地震の支援活動 に関する会議 | 德田 | 1月10日~ | Web会議 | 能登半島地震に係る石川県医師会等対策会議 県内の医師会等医療関連団体の代表者で、災害 支援に係る活動状況と現状及び方針について協議 した。 | | |
| | 德田 | 3月22日 | 県リハセンター | 復興リハビリ・地域リハビリ支援体制検討会議 日本理学療法士協会・作業療法士協会・言語聴覚 士協会の会長及び副会長、日本JRAT本部長、石 川県理学療法士会・作業療法士会・言語聴覚士会 の会長で、復興リハビリ及び地域リハビリ支援体制 の構築について協議した。 | | |
| | 金沢 | 5月24日 | | | | |
| | | 8月29日 | | 幹事会、小委員会が各々開催され、石川JRAT研修会の準備、県との協定に向けた策定作り、石川JRAT隊員の登録に向け、会長・副会長が各病院・ | | |
| | | 1月3日 | | | | |
| 石川JRAT会議 | | 1月4日 | Web会議 | | | |
| 和用JKAT云識 | | 1月5日 | WED公成 | 施設への協力依頼を行った。 | | |
| | | 1月6日 | | 1月1日の発災後からは対策本部、活動本部の立ち上げの為の会議が行われた。 | | |
| | | 1月7日 | | | | |
| | | 1月8日 | | | | |
| 1.人协人朋办法提供机 | 削纏田 | 1月16日 | | 士会協会間の会員の一致化に向けた連携体制構築のための会議に、委員として出席した。 | | |
| 士会協会間の連携体制 構築推進会議 | | 2月20日 | Web会議 | | | |
| | | 3月27日 | | | | |

6. 福利厚生事業

| 事 業 名 | 担当者 | 開催日 | 開催場所 | 参加者及び内容 | |
|-------------------------|-----|-------|---------------------|---|--|
| 会員懇親会·交流会 | 木村 | 中止 | | 新型コロナウイルス感染対策のため中止 | |
| | 中村 | 6月4日 | 定時総会 | 3社の商品プレゼンテーションを実施した。 | |
| 企業展示 | | 11月5日 | 石川県 言語聴覚 学術集会 | 抄録集巻末の広告掲載7社(バランス株式会社、株式会社フードケア、ニュートリー株式会社、キッセイ薬品工業株式会社、ティーアンドケー株式会社、理研産業株式会社、株式会社宮源) 動画商品紹介2社(バランス株式会社、株式会社フードケア) | |
| 会員向け災害時安否確認 の登録・模擬訓練 | 金沢 | 通年 | 金沢 | 2024年3月31日現在129名登録済 1月1日の能登半島地震の際、全会員に向けて安否 確認を行い、その後も状況の確認を行った。 | |

7. 組織の運営・管理

| 事 業 名 | 担当者 | 開催日 | 開催場所 | 参加者及び内容 |
|------------|-----|--------|--------------------------------------|---|
| 定時社員総会 | 木村 | 6月4日 | ハイブリッド (Webと参集) 金沢市ものづくり 会館 | 公益社団法人第5回定時社員総会として162名の 総社員中出席社員(書面評決による者を含む)は 110名(委任状80名) 第1~2号議案すべて承認 |
| | 德田 | 4月23日 | Webと参集 | |
| | | 7月9日 | | |
| | | 9月10日 | | |
| 理事会 | | 11月12日 | | |
| | | 1月28日 | | |
| | | 2月25日 | | |
| | | 3月10日 | | |
| 局・WGミーティング | 各理事 | 適宜 | | |

3. 2024 年度の主な事業・行事予定

| 月日 (曜) | 事業・行事 |
|---------|---------------|
| 6月2日(日) | 総会 |
| 6月 | 年報発行 |
| 6月 | ニュースレター発行 |
| 8月末 | 言語聴覚の日イベント |
| 9月 | ニュースレター発行 |
| 開催日未定 | 金沢市健康づくりフェア出展 |
| 開催日未定 | いしかわ介護フェスタ出展 |
| 12月 | ニュースレター発行 |
| 3月 | ニュースレター発行 |

*キャリアアップ支援事業(通年)

*会員向け災害時安否確認の登録(通年)

《地域支援局より》

●日程未定

地域リハリーダー養成研修会 訪問リハビリテーション実務者研修会 県民公開講座

《研修部より》

●日程未定

症例検討会

援助的コミュニケーション入門研修会

生涯学習基礎講座「職種連携論」「臨床のマネージメントと職業倫理」

ベーシックコース「音声障害」「言語発達障害」「高次脳機能障害」「同職種連携」「医療・介護・社会福祉」

《学術部より》

●日程未定

第22回北陸言語聴覚学術集会

日本言語聴覚士協会生涯学習専門講座・生涯学習ポイント対象研修会

《災害リハWGより》

●日程未定

石川JRAT研修会

【理事会開催予定】

4月29日、6月2日、7月7日、9月8日、11月10日、1月19日、2月24日、3月9日

4. 石川県言語聴覚士会主催 2023 年度 研修会一覧

※Web開催にはZoomを使用

| 年月日(曜) | 内 容 | 講師・発表者 | 場所 | 担当 |
|-------------------|--|--|---------------|-----|
| 2023. 7.22 (土) | 生涯学習プログラム専門講座 「臨床を豊かにするための研究法(基礎編) -120分で症例報告の枠組みを書こう」 | 東京大学医学部附属病院 摂食嚥下センター 副センター長 兼岡 麻子 氏 | Web開催 | 学術部 |
| 2023. 9.2 (土) | 生涯学習プログラム基礎講座 「臨床業務のあり方・進め方」 | 恵寿総合病院 諏訪 美幸 会員 | Web開催 | 研修部 |
| 2023. 9.9 (土) | 生涯学習プログラム基礎講座「研究法序論」 | 金沢大学 小林 宏明 会員 | Web開催 | 研修部 |
| 2023. 10.22(日) | 第21回北陸言語学術集会 一般演題 「表現能力向上を目指し作文指導を行った 人工内耳装用児の一例」 特別講演 「事例に学ぶ Dysarthria 関連所見」 | 恵寿総合病院 真田はるか 会員 愛知学院大学 健康科学部健康科学科 田中 康博 氏 | 福井県自治会館多目的ホール | 学術部 |
| 2023. 11.5(日) | 第12回石川県言語聴覚学術集会 1. 「RISPを施行し、Verbal Activity Log の成績が向上した一症例」 2. 「左側頭葉梗塞により聴覚失認が疑われた一失語症例 第二報」 3. 「当院の小児言語療法の現状と課題ー小児科発達外来と就学支援における言語聴覚士の役割ー」 4. 「柳原40点法による予後予測に基づいてリハビリテーションを進めたBell 麻痺の一例」 | 金沢医科大学病院 藪下 将人 会員 恵寿総合病院 藪下 千穂 会員 公立能登総合病院 薮越 文佳 会員 城北病院 川原 共恵 会員 | Web開催 | 学術部 |
| | 特別講演 「失語症の理解のために ―― 自動言語をめぐる話」 | 菰野聖十字の家 波多野和夫 氏 | | |
| 2023. 12.22(金) | 症例検討会 「脳皮質下出血により失語症を呈した症例 -環境による発話状況の改善-」 | 浅ノ川総合病院 田中未奈美 会員 | Web開催 | 研修部 |

| 年月日(曜) | 内 容 | 講師・発表者 | 場所 | 担当 |
|-------------------|----------------------------|--|--|-------|
| 2024. 1.28 (日) | 会員研修プログラムベーシックコース 「失語症」 | 公立羽咋病院 荒川 和美 会員 | Web開催 | 研修部 |
| 2024. 2.11 (日) | 県民公開講座 「読み書き障害の理解と学習支援」 | 北陸大学国際コミュニ ケーション学部 心理社会学科教授 河野 俊寛 氏 | 石川県立図書館 だんだん広場 (オンラインとの ハイブリッド開催) | 地域支援局 |

1)研修部

① 症例検討会

■脳皮質下出血により失語症を呈した症例 環境による発話状況の変化

> 浅ノ川総合病院 田中未奈美

【はじめに】今回、脳皮質下出血により、失語症を呈した症例について報告する。

【症例情報】40代男性

【診断名】脳皮質下出血

【神経学的所見】右片麻痺

【神経心理学的所見】失語症、注意障害

【**画像所見**】左側脳室後角~頭頂葉内側面に出血 【**既往**】高血圧

【現病歴】X年Y月Z日、車の運転中に右片麻痺、 意識障害を呈し縁石に乗り上げる形で単独事故。 当院に救急搬送。Z+3日PT、OT、ST処方、Z+ 33日回復期病棟転棟。Z+199日自宅退院。

【利き手】右

【入院前生活】6人暮らし。ADL自立。IADL 車の運転

【学歴】高校退学、引き籠り

【主訴】特にないです

【希望】聴取出来ず

【初期評価Z+27日】言語機能:簡単な内容、 単語レベルの理解不十分。自発話少なく保続あ り。聴覚的把持低下、錯読あり。高次脳機能: 注意の切り替えや右側の認識不十分。口腔機 能:舌運動指示入らず口唇運動を繰り返す。摂 食・嚥下機能:口腔期~咽頭期良好

【問題点・目標】言語機能低下によるコミュニケーション制限、精神状態不安定。短期目標:

自発性の向上、文レベルでの意思表出。長期目標:他者との円滑なコミュニケーション。

【経過】介入当初、保続が多く意思疎通困難。 短文表出の向上目的にて呼称、動作語の説明実 施。介入1~2か月時、必要な事柄を単語で表出 可。有意味語乏しく助詞省略あり。物語の説明 課題追加。短文表出認めるも発話内容空虚であ り文レベルでは情報量乏しい。環境変化に弱く 固執し課題実施困難なことあり。介入3~4か月 時、発話量増加し意思伝達可能だが指示語が多 く詳細な説明困難。意思伝達向上のため会話形 式の課題実施。呼称可能な単語も用途説明困難 だったが課題継続し一部説明可。環境に対する 訴えの対処法提示。本人に選択してもらい病棟 と対応を統一。退院日を決定し本人に伝達。課 題への切り替え可。介入4か月~退院時、興味 のある話題提供にて情報量多く文レベルの表出 可。自発話増加あるが話の推測は必要。

【最終評価】言語機能:文レベルの質問、課題 指示理解可。自発話増加し、文レベルでの意思 伝達可能だが推測必要。保続や錯語は軽減した が錯読残存。高次脳機能:注意の切り替え、右 側認識可。

【考察】超皮質性感覚失語は病巣の違いにより、理解の障害が異なるとされている。本症例は物の用途などの複雑な概念への語義理解へのアクセス低下より、概念を介した具体的な説明やまとまりのある発話に困難さがあることから後方病巣の症状であると考えた。これに対し概念理解課題や実用的な会話訓練を行い、概念理解向上し具体的な説明が一部可能となり本人の話の内容が推測しやすくなった。また、退院支援を早期に進めたことや病棟での対応を統一したことにより精神面の安定を図れたことや会話時本人の好む内容を取り入れることで発話意欲の向上を認め自発話の増大に繋がった。

② 吃音研修会

■「『サポートブック』活用を 吃音のある小児の指導・支援」開催報告

開催日時:2024年2月10日(土)13:00~14:30

開催方法:Web(Zoom)開催

講 師:小林 宏明 会員(金沢大学人間社会研究域学校教育系)

研修では、吃音に関する最近の知見や吃音のあるお子さんの保護者の思い、吃音のあるお子さんとその保護者の方への対応の提案などを幼児期・学童期に分けて具体的に講義していただきました。また、現在小林先生が研究していらっしゃる吃音サポートブックの紹介をしていただきました。吃音について情報が少なく不安に思っている保護者もいらっしゃることから、サポートブックによる吃音の情報提供は不安軽減の一助になりますし、お子さんの成長に伴い関わる幼稚園や小学校の先生方にも吃音やお子さんの言語状況について知っていただくことはとても重要と感じました。さらに幼児吃音臨床ガイドラインについても紹介していただきました。幼児に関わる各専門職や対応施設が連携・分業し、社会全体でサポートできる体制構築を目指すものだそうです。その中でSTは言語症状をみることのできる専門職として指導や支援方法の引き出しを多く持つ必要があるとおっしゃっていました。STとして常にアップデートしていかなくてはと、改めて感じました。

城北病院 長原 幸穂 ニュースレター2024.3

2) 学術部 講演会・研修会

- ① 生涯学習プログラム専門講座
- ■「臨床を豊かにするための研究法(基礎編)」開催報告

開催日:2023年7月22日(土) 開催方法:Web(Zoom)開催

講師:兼岡麻子氏

専門講座「臨床を豊かにするための研究法」に参加しました。事前にwordの準備と参考文献に目を通しつつ、自分の書きたい対象者を決めておく必要がありました。120分の講義の中で前半90分は、症例報告の枠組みを一つずつどのように書いていけばよいか丁寧に説明していただきながら、その場で各自症例報告を書いていきました。後半では、投稿規定の確認や症例報告を出す手順、文献検索の仕方、文献の書き方、指導・協力者の大切さなど話を聞くことができました。

今まで症例報告を書く中で、どのようなテーマで書くのがよいか悩むことがありました。今回の講義で、症例で困った人や苦労した人は何かしらの新奇性があると思ってよいと話されており、また臨床的価値の視点など一歩踏み込んだ目的の考え方も教えていただき、症例報告が少し書きやすくなったと感じました。また、今回症例報告を書くうえで、足りない知識や情報が見えたこと、アウトプットしていくことが患者さんに還元できることもあるため、症例報告をしていくことや日々の中で先行研究や文献を読むことの大切さを知る良い機会となりました。

浅ノ川総合病院 木村 彩乃 ニュースレター2023.9

② 第12回 石川県言語聴覚学術集会 抄録

- ■RISP を施行し、Verbal Activity Logの 成績が向上した一症例
 - ○藪下将人¹⁾、松井加名子¹⁾ 経田香織¹⁾、山﨑憲子¹⁾ 山本雅代¹⁾、柴田真彩¹⁾ 松下 功²⁾



1)金沢医科大学病院 リハビリテーションセンター
2)金沢医科大学病院 リハビリテーション医学科

【はじめに】健忘失語症患者に repeated increasingly-speeded production(以下 RISP)を施行し、喚語速度の向上を認め、 Verbal Activity Log(以下 VAL)の成績も向上した症例を経験したため以下に報告する。

【症例】80代女性、右利き、診断名:左脳梗塞、画像所見:左前頭葉、中前頭回~一部運動野に高信号。その他頭頂葉や側頭葉、後頭葉に散在。現病歴:0病日午前10時ごろに家人が会話している際に、言葉が出てこず違和感を認め入院。3病日にST開始。神経学的所見:右上肢・手指に軽度運動麻痺、感覚障害あり。神経心理学的所見:健忘失語。主訴:言葉が出ない。

【初期評価】10~13病日:Boston 失語症重症 度尺度(以下BDAE):Grade2。標準失語症検 査(以下SLTA):呼称17/20、語列挙5、漫画 の説明1点。SLTA 総合評価法得点:9/10点。 失語症語彙検査(以下 TLPA):意味カテゴリー 別名詞検査:163/200。

【経過】40病日:呼称の正答率は向上を認めたが、日常会話では著明な変化を認めなかった。より日常会話に般化できるようにRISPを開始した。41病日:喚語速度について、エスコアール、2001から抜粋した30語で検討した。結果は7分10秒、28/30正答。42病日:自宅退院。46病日:週1回の外来リハビリ(60分)開始。社会参加の評価を目的にVALを実施。成績はAS(発話の頻度)1.1、HW(発話の質)0.8であった。

【最終評価】123、130病日:BDAE:Grade3、SLTA:呼称20/20、語列挙8、漫画の説明5点。SLTA総合評価法得点:9/10点、TLPA:意味

カテゴリー別名詞検査 186/200。VAL:AS3.0、HW3.0。30語呼称は1分45秒、29/30正答まで改善。実場面で本症例は、周囲の人々や親せきに自身の失語症の状態を打ち明けることができ、妹と食事会をするなど生活の質が向上したと話されていた。

【考察】本症例はRISPを施行することで、絵カードの呼称課題の成績、喚語速度が向上し、漫画の説明の改善、喚語困難、錯語の軽減を認め、VALの成績も改善した。RISPは喚語速度の向上をもたらしQOLを改善させることが推測された。

- ■左側頭葉梗塞により聴覚失認が疑われた 一失語症例 第二報
 - ○薮下千穂¹⁾、荒尾祐希¹⁾ 真田はるか¹⁾、木村聖子¹⁾ 諏訪美幸¹⁾、川北慎一郎²⁾ ¹⁾恵寿総合病院



リハビリテーションセンター 言語療法課 ²⁾恵寿総合病院 リハビリテーション科

【はじめに】昨年左側頭葉梗塞により聴覚失認が疑われた一失語症例を経験しコミュニケーション手段として読話が有効であると考えたことを報告した。今回、退院後の生活期でのコミュニケーション手段の変化とSTの関わりについて報告する。

【症例】80代男性、矯正右利き。独居。発症前はADL、IADLともに自立。難聴があるも補聴器の装用経験はなし。

【現病歴】発症翌日にA病院受診し入院。発症3ヵ月時に当院回復期病棟へ転院。発症6ヵ月後にサービス付き高齢者住宅に退院し、外来STでフォロー継続。発症1年1ヵ月経過後、転居に伴いST終了。

【医学的診断名】心原性脳塞栓症 【神経学的所見】麻痺なし、感覚障害なし 【神経心理学的所見】失語症、聴覚失認

【頭部MRI】左上側頭回から中側頭回、角回に梗塞巣を認めた。

【退院時の評価】RCPM:26/36点。SLTA:

<聞く>単語10/10正答、短文7/10正答。<読む>単語10/10正答、短文8/10正答。発話は流暢、呼称3/20正答で新造語(例:時計→かくかん)や音韻性錯語(例:本→はん)がみられた。<書く>漢字単語4/5正答、仮名単語0/5正答。重度感覚性失語を認めた。短縮版実用コミュニケーション能力検査(短縮版CADL):56/126点でコミュニケーション・レベル2(大半援助)であった。

【コミュニケーション手段の経過】STは口元が見えるマスクを使用し、読話や筆談を併用してコミュニケーションを図った。日常生活では、コロナ禍により周囲の人はマスクを着用しているため、読話の使用に制限があったが、訓練時では、読話は継続したままジェスチャーの使用頻度を増やした。本症例からのジェスチャーの表出も徐々に増え、ST終了時には、名詞だけでなく動詞や形容詞等もみられるようになった。

【最終評価】発症1年1ヵ月のSLTA再評価では、退院時と比較し著しい変化は認めなかった。短縮版CADLではコミュニケーション・レベルは3(一部援助)に改善した。

【考察及びまとめ】重度感覚性失語に聴覚失認を合併した本症例のコミュニケーション手段として、理解を促すために読話の併用が有効であると考えた。訓練場面では読話の併用を継続したが、コロナ禍により日常生活での活用が困難であった。そのため、STがジェスチャーの使用頻度を増やしたことで、本症例からのジェスチャーの使用も増加した。今後、読話を使用しやすい環境になれば、ジェスチャーも活用しながらよりスムーズなコミュニケーションにつながると考えられた。

- ■当院の小児言語療法の現状と課題
 - 小児科発達外来と就学支援における 言語聴覚士の役割 -
 - ○薮越文佳、山本 楓 林 麻里亜 公立能登総合病院 リハビリテーション部



【背景】発達障害の認知度、関心は高まっており、相談や診断を目的として医療機関を受診するケースが増えている。それに伴い、小児の外来言語療法のニーズも高く、当院には能登地区全域より言語訓練に通院がある。

【目的】当院の外来小児言語療法について後方 視的に調べることで、当院の小児言語療法の現 状と課題について考察する。また、小児科発達 外来にて実施している就学支援の内容について 紹介する。

【方法】2012年4月から2023年3月の期間に当院 外来言語療法の小児新患依頼数、依頼科、依頼 内容等について年度ごとに分けて調査した。

【結果】2018年には当院小児科に専門枠が設け られたこともあり、乳幼児健診や保育園巡回相 談によって近隣地域の保健センターや巡回専門 員によりピックアップされた場合に当院の小児 科発達外来へ直接紹介されて受診するケースが 増加している。それに伴い、11年間の間に言語 療法の新患依頼数は徐々に増加している。近年 は就学支援の時期に合わせての知能評価依頼も 増えている。依頼科は小児科が主であるが、次 いで耳鼻科、歯科口腔外科から摂食嚥下の評 価・指導依頼、精神科から構音障害や吃音の評 価と介入依頼もあった。依頼内容は機能性構音 障害と自閉スペクトラム症(以下ASD)の幼 児期訓練の依頼が多かった。毎年少数ではある が必ず吃音の評価訓練依頼があった。介入時期 別でみると未満児からの介入依頼は3歳3か月健 診で指摘を受け、紹介された知的障害に伴う言 語発達遅滞や知的障害を伴うASDが多く、年 中児では4歳児巡回相談で医療機関受診を進め られた機能性構音障害の訓練依頼や就学支援を 見据えての知的障害を伴わないASDが目立っ た。年長児は機能性構音障害と、就学前に指摘 されたASDが多かった。小学生以上は主に診 断補助のための知的検査のみの依頼や吃音の相 談であった。

【考察】初診から能登地区で受診、診断、訓練の流れが確立してきている。地域の特別支援学校や保健センターとは顔の見える関係が構築でき、連携は少しずつではあるが整ってきていると考えられる。一方で日々の療育にかかわる保育園等との連携や就学後の学校との連携が課題

である。また、院内の課題としては入院患者対 応のため外来小児言語療法に避ける時間が限ら れており、言語聴覚士のマンパワー不足が課題 である。

■柳原40点法による予後予測に基づいて リハビリテーションを進めたBell麻痺の一例

> 川原 共恵 公益社団法人 石川勤労者医療協会 城北病院



【はじめに】今回、初めてBell麻痺を呈した症例を経験した。一般的に、顔面神経麻痺の機能予後はエレクトロニューログラフィー(以下ENoG)で診断するとされているが、当院では、ENoGを保有していない。しかし、ENoGがなくとも、発症4ヶ月の急性期には臨床的に柳原40点法(以下柳原法)と相関があり、予後予測できることを知った。これに基づきリハビリテーションを進めた症例を経験したため報告する。

【症例】70代女性 2023年3月X日 左顔面の 違和感があり、当院を受診しBell麻痺と診断された。

主訴:顔の麻痺が少しでも良くなりたい。

【神経学的所見】Bell麻痺(左顔面神経麻痺)

【初回評価】X+1日 柳原法14/40点 病的共同運動、拘縮はなし。発話明瞭度1。嚥下機能、認知機能問題なし。飲み物が口からこぼれる、目がしっかり閉じず涙が出る、笑うと顔が歪むことから、気分の低下あり。

【経過】第1期(初回評価~第23病日): 自主トレーニングを中心とし、保温、マッサージ、ストレッチを実施。病的共同運動の出現がないよう、開瞼運動、口角挙上運動を取り入れた。入院時最終評価:柳原法28/40点。病的共同運動の出現はなく、軸索断裂型と評価した。第2期(第39病日~第91病日): 外来でのリハビリとなる。自主トレーニングの確認、筋収縮が見られる部位における可動域運動、筋力増強運動を適宜指導した。

外来最終評価:柳原法39/40点

【終わりに】Bell麻痺やHunt症候群の理学的リハビリテーションの目標は、病的共同運動の予防軽減であり、ENoGによる予後診断に従い急性期、亜急性期、慢性期のリハビリテーションを進めることが標準的でと言われている。

今回は、ENoGが無い状況下であったため、 柳原法の評価を頼りに急性期の回復過程をある 程度予測しながらリハビリテーションを進め、 病的共同運動を起こすことなく回復を促進でき た。柳原法は予後予測及び回復過程の確認とし て有効な評価法であると思われた。

石川県言語聴覚学術集会 ○特別講演○

テーマ 失語症の理解のために ―自動言語をめぐる話― 【講師】 菰野聖十字の家 波多野 和夫氏

今年の特別講演は、失語症研究の第一人者である波多野和夫先生に四年ぶりにお話いただけるという ことで、大変楽しみにしておりました。

今回は言語の自動性という観点から、再帰性発話のような話者の意図に基づかない不随意な発話、あるいは空語句などの意図の要素が薄弱な発話などについて、その失語学的な意味を詳しく解説していただきました。言語自動症・再帰性発話・言語常同症など、発話の例を挙げてご説明いただいたので、大変分かりやすかったです。

また、自動言語は失語症があっても残りやすいというお話や、空語句などはむしろ独り言に近く、この独り言というのがむしろ失語症研究にとって重要なのではないかというお話などは、特に興味深く拝聴しました。

各研究者のエピソードなども巧みな話術でお話いただき、大変面白く、惹き込まれました。四年前と同じく、 失語症だけでなく言語そのものに興味が湧いてくるような刺激的な講演でした。貴重なお話をありがとうございました。 城北病院 大場 美穂 ニュースレター 2023.12

③ 第21回 北陸言語聴覚学術集会 抄録

- ■表現能力向上を目指し作文指導を 行なった人工内耳装用児の一例
 - ○真田はるか¹⁾、木村聖子¹⁾ 諏訪美幸¹⁾、荒尾祐希¹⁾ 薮下千穂¹⁾、川北慎一郎²⁾ ¹⁾恵寿総合病院



リハビリテーションセンター 言語療法課²⁾恵寿総合病院 リハビリテーション科

キーワード:作文指導 人工内耳装用児 表現能力

【はじめに】聴覚障害児は就学後に語彙、統語等の言語力や読書力、作文能力に問題をもつ児童が多く、最近では普通小学校にインテグレートした児童や人工内耳装用児にも同様の問題が指摘されている。今回、通常学級に在籍する人工内耳を装用した小学生一児の作文指導経過を報告する。

【症例】】 0歳5ヵ月より文字 - 音声法による訓練を受け、現在、通常学級に在籍する小学5年生の先天性聴覚障害児。平均装用閾値は25.0dB。小学3年生から当院で言語聴覚療法開始。コミュニケーション(8歳7ヵ月時)は聴覚口話法でやりとりが可能だが、主語や内容が不足して相手に伝わりにくい話し方をしていた。<評価>WISC-IV(7歳6ヵ月時)は、FSIQ:0、VCI82、PRI82、WMI:79、PSI:94。絵画語彙発達検査(9歳6ヵ月時)は語彙年齢9歳1ヵ月で評価点9。新読書力診断検査高学年用(3年3学期)評価段階4、読書学年は5年2学期。初回の作文(9歳8ヵ月時)は文章数が3文で、単文(33%)と重文(67%)からなり、助詞の誤りは認めなかったが、出来事の羅列のみで構成されていた。

【方法】テーマ設定は本児と相談し、決定した。文字数の指定は行わず、書き終えたところまでとした。作文作成後に、指導者が内容につ

いて本児に質問をしながら追記や表現方法を補足し、言い換えが可能な同義語の刺激を行った。 指導は1年間で合計6回行った。自宅では、本児が絵を描くことが好きなため、絵日記を取り入れた。訓練時に作成した作文を、森ら(2012)の報告を参考に、文の複雑さ(単文、重文、複文、重複文)、意味不明確・不適切表現の文、助詞の誤用、動詞の誤用に分類した。

【結果】指導1回目の作文の文章数は9文で、単文(56%)、重文(33%)、複文(11%)で構成されており、助詞の誤りを1箇所認めた。6回目では文章数は14文に増加し、単文(64%)、重文(21%)、複文(14%)がみられた。また、意味不明確・不適切表現の文は2箇所で、助詞や動詞の誤用は認めなかった。

【まとめと考察】人工内耳を装用した小学生一 児の作文指導経過を報告した。結果より、意味 不明確・不適切表現の文の誤りが2箇所みられ たが、文構造の中心が単文と重文から複文や重 複文を含む作文に変化した。森らは、就学後も 段階的に継続した訓練を行ない、読解と作文能 力が向上したと報告している。今後も、本児に 作文指導を継続し、様々なパターンの文章を書 くことを課題に取り入れることで、自身の意見 や考えを相手に伝わりやすく表現できるように なると考えた。